

萩地域の公共交通の課題と将来像(案) について

萩・大井地区意見交換会

平成31年4月

1. アンケート調査結果の概要

- ・萩市全体
- ・萩・大井地区

2. 萩地域の公共交通利用実態調査結果の概要

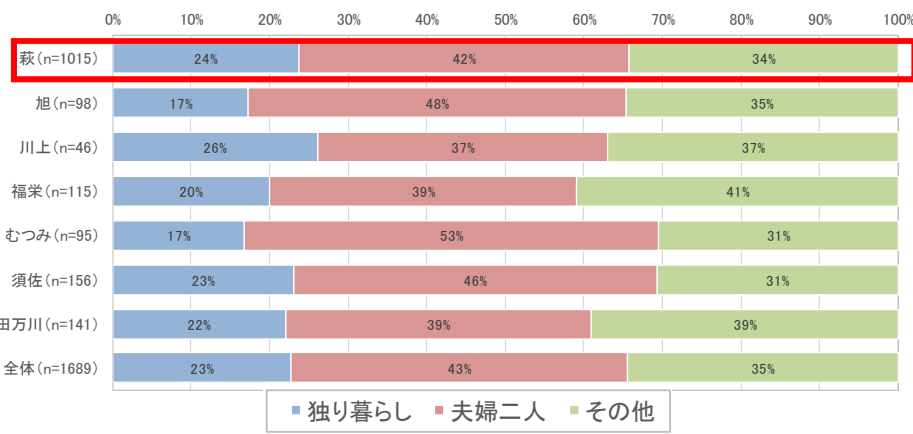
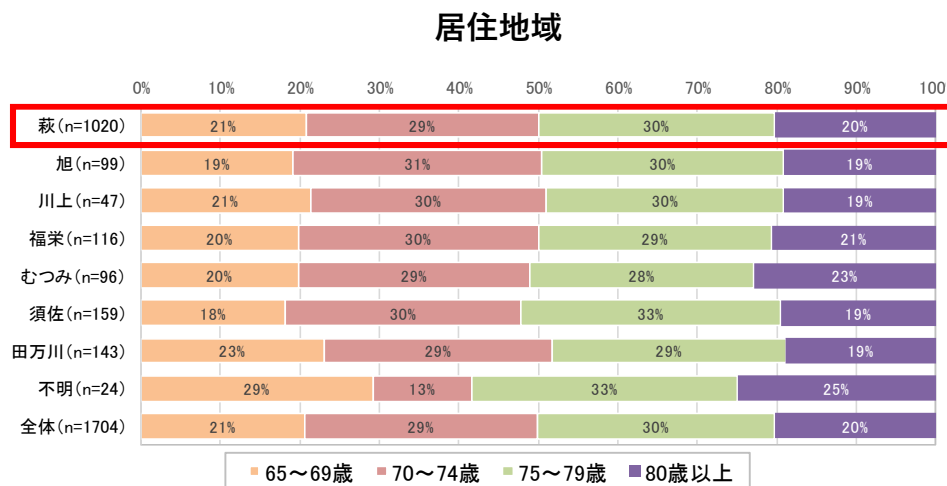
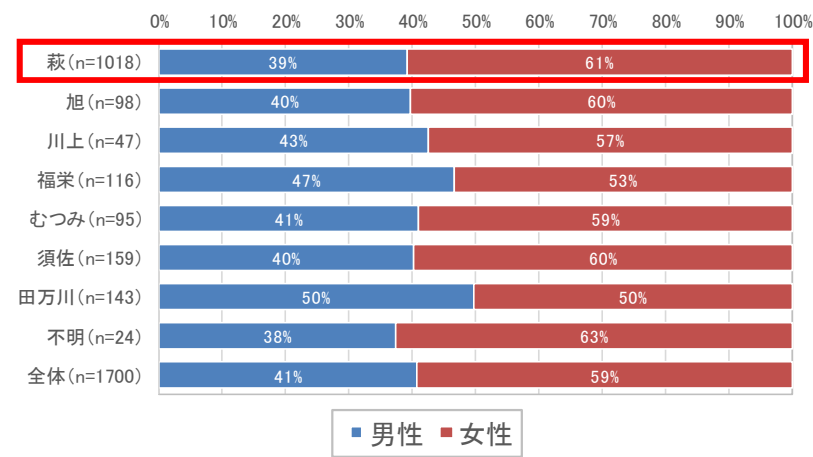
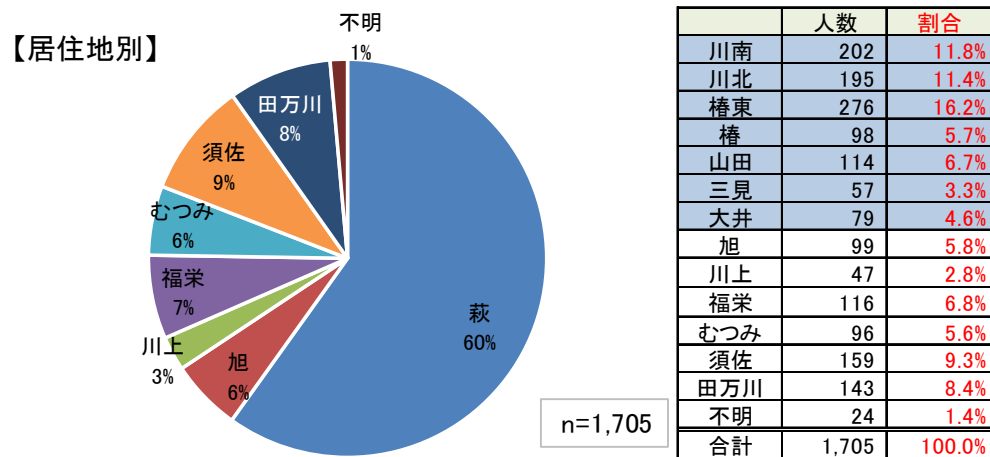
- ・JR山陰本線
- ・路線バス(防長交通、中国JRバス)
- ・まあーるバス
- ・ぐるっとバス

3. 高齢者生活支援バスについて

4. 萩地域の公共交通の課題と将来像(案)について

1. アンケート調査結果の概要（萩市全体）

- 市内に居住する65歳以上の方を対象にアンケート調査を実施。無作為に抽出した2,000名の内、1,705名の方から回答が得られました。（回答率85%）
- 萩地域は、無作為に抽出した1,254名のうち、1,021名の方から回答が得られました。（回答率81%）

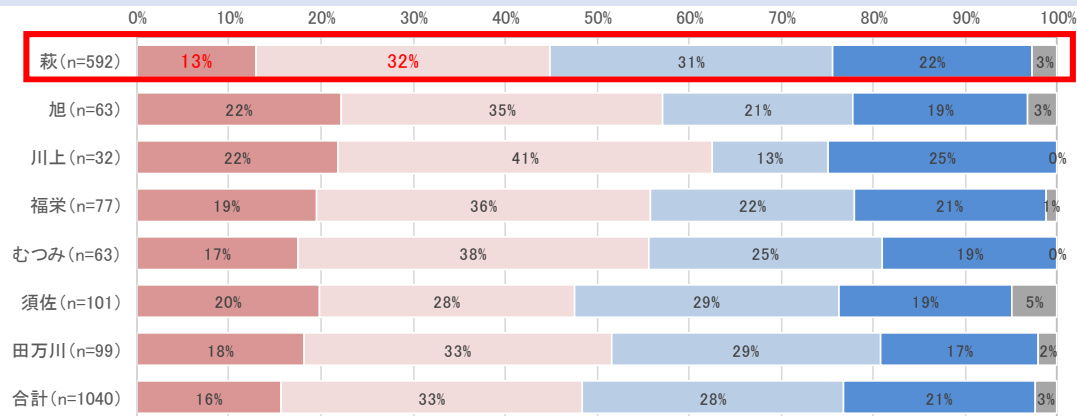


年齢

家族構成

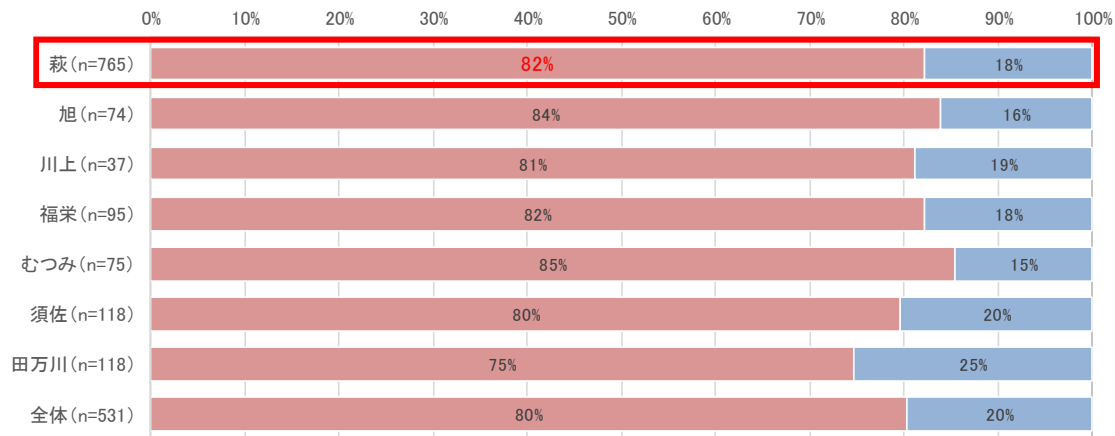
1. アンケート調査結果の概要（萩市全体）

- 自動車運転免許保有者の近い将来の運転への不安は、「不安を感じる」が1割、「やや不安を感じる」が3割であり、4割の方が近い将来の運転への不安を抱えています。
- 自動車の運転が不安になった場合、路線バス等の公共交通の利用意向は、「利用する」が8割を占めています。



■ 不安を感じる ■ やや不安を感じる ■ あまり不安は感じない ■ 不安は感じない ■ 分からない

近い将来の運転への不安（自動車運転免許保有者）

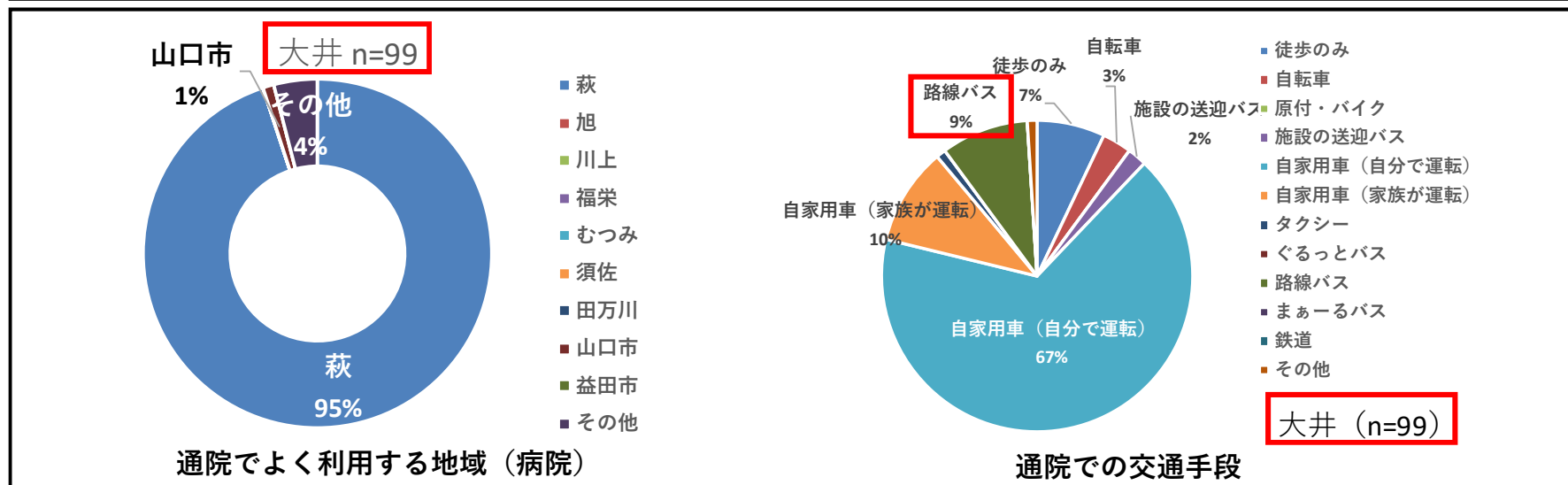
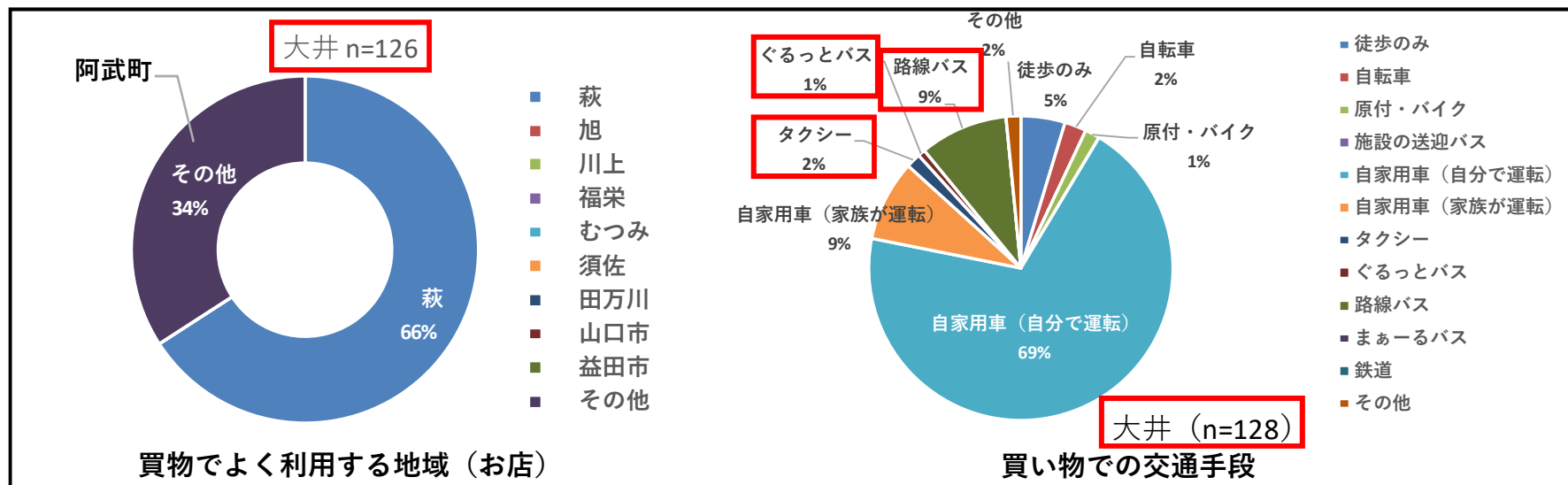


■ 利用する ■ 利用しない

自動車の運転が不安になった場合、路線バス等の公共交通の利用意向

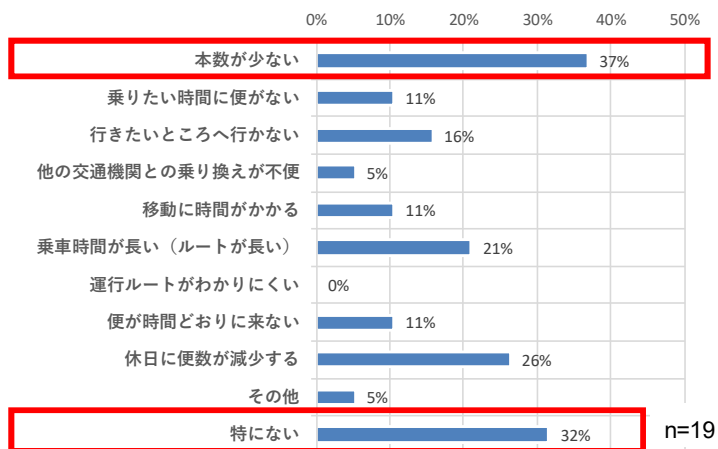
1. アンケート調査結果の概要（萩・大井地区）

- 萩・大井地区の高齢者の買物は、萩地域内が7割、阿武町が3割で、通院は萩地域内での移動がほとんどです。
- 交通手段は、「自家用車(自分で運転)」が7割、「自家用車(家族が運転)」が1割であり、公共交通（路線バス・まーるバス・タクシー）の利用は1割程度です。

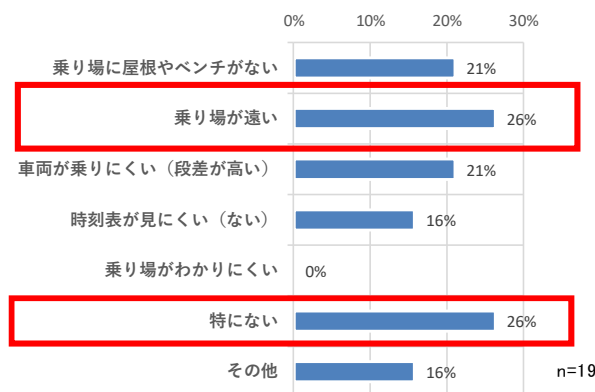


1. アンケート調査結果の概要（萩・大井地区）

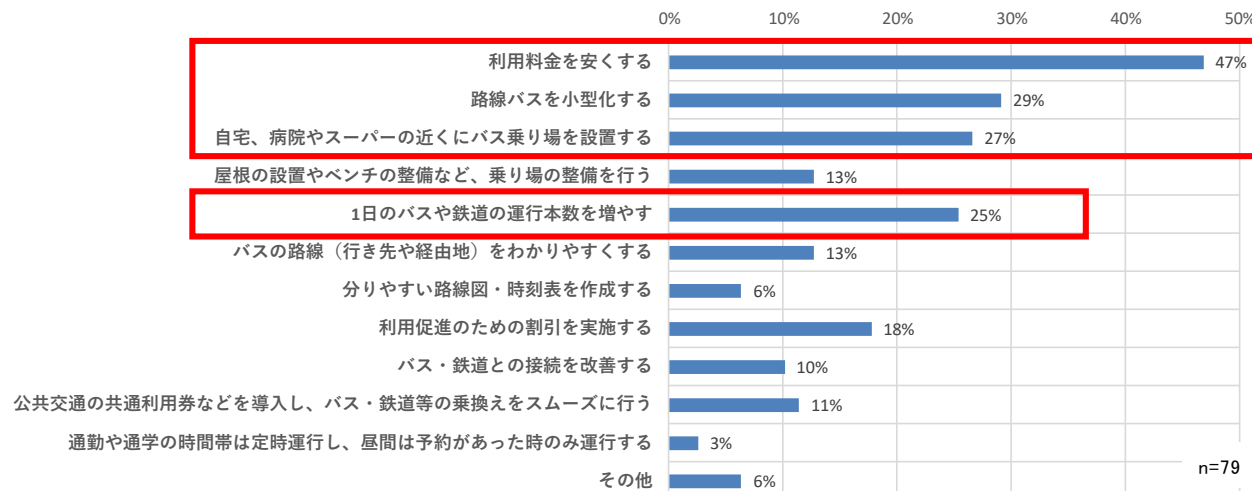
- 運行ダイヤ・ルートに関する不満点については、「運行本数が少ない」が4割、「特にない」が3割でした。
- 車両や乗り場に関する不満点については、「乗り場が遠い」が3割、「特にない」が3割でした。
- 今後の公共交通の見直しについては、「料金を安くする」が5割、「路線バスを小型化する」「自宅、病院やスーパーの近くにバス乗り場を設置する」「1日のバスや鉄道の運行本数を増やす」がそれぞれ3割でした。



公共交通の運行ダイヤ・ルートに関する不満点



公共交通の車両や乗り場に関する不満点



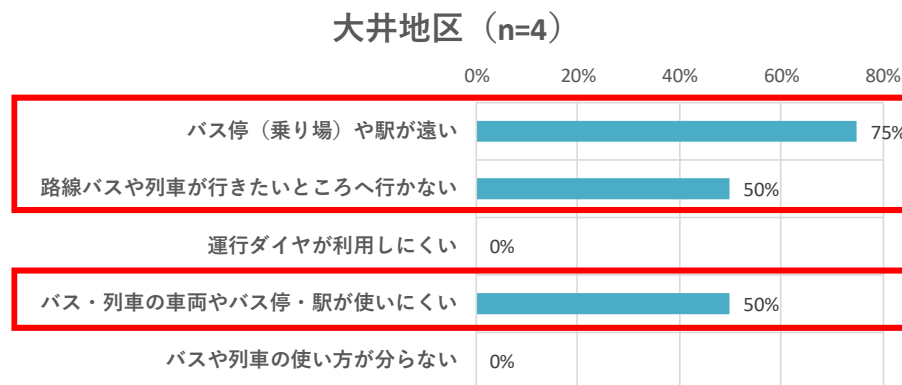
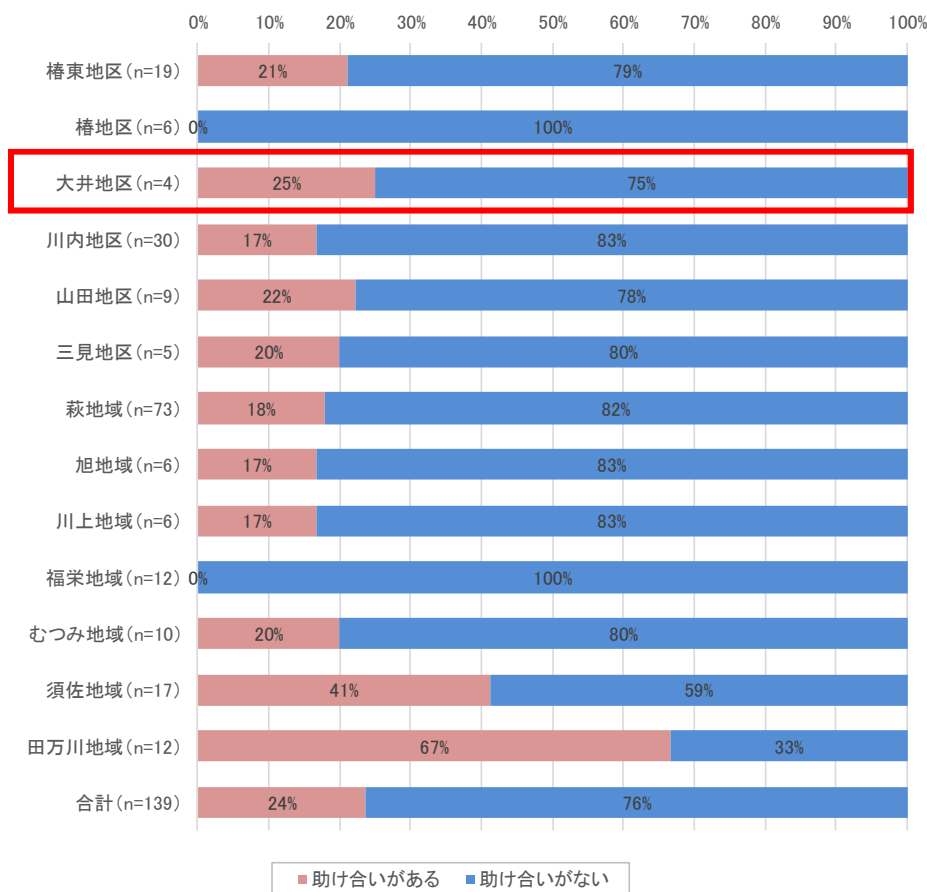
今後の公共交通の見直しについて

出典：住民アンケート結果（平成30年）

1. アンケート調査結果の概要（萩・大井地区）

【民生委員アンケート調査結果】

- 民生委員173名 回答者数145名
- 萩・大井地区での移動に関する助け合い（買物や通院支援等）は、「助け合いがある」が2割半、「助け合いがない」が7割半です。
- 公共交通の問題点としては、「バス停(乗り場)や駅が遠い」が8割弱、「路線バスや列車が行きたいところへ行かない」「バスの車両やバス停が使いにくい」がそれぞれ5割でした。

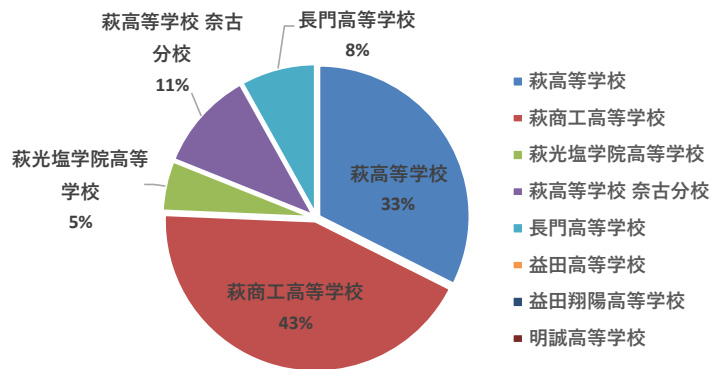


地域内での移動に関する助け合い（買い物や通院支援等）

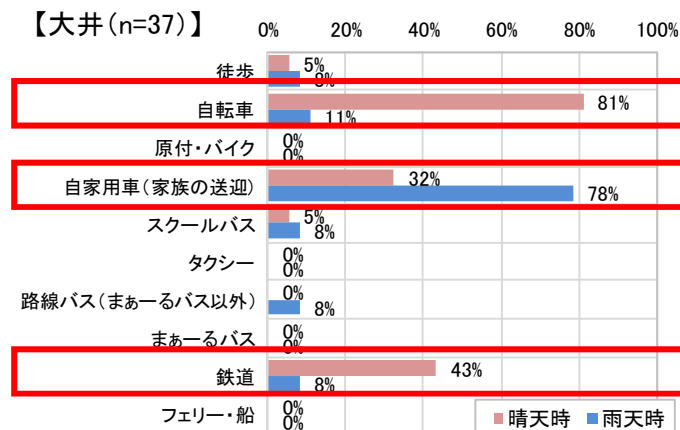
1. アンケート調査結果の概要（萩・大井地区）

【高校生アンケート調査結果】

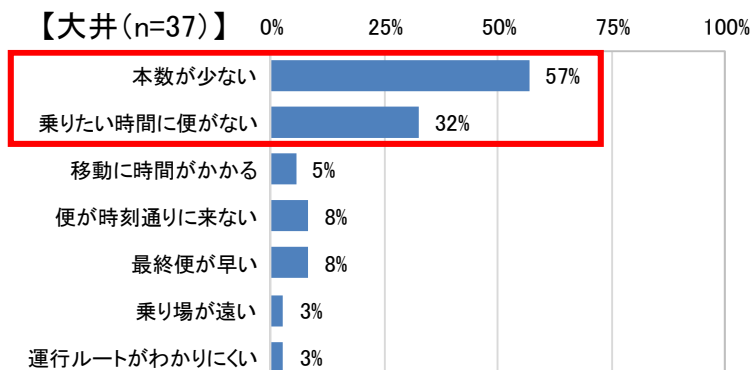
- 萩・大井地区高校生回答者数37名（全体 高校生986名 回答者数888名）
- **高校生の通学先は、萩地域内が7割、長門市へ1割、阿武町へ1割の学生が通学**しています。
- 通学手段は、「**自転車**」が8割を占め、雨天時は「**家族の送迎**」が8割となっています。**公共交通での通学は、鉄道が4割程度**となっています。
- 公共交通に関する不満点については、「**運行本数が少ない**」が6割、「**乗りたい時間に便がない**」が3割となっています。



通学先



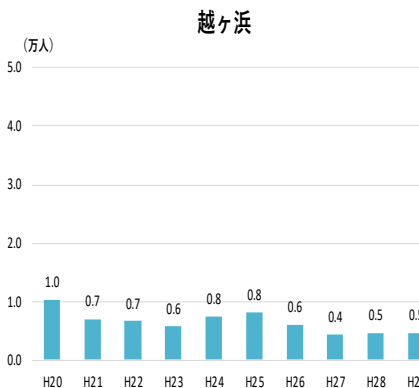
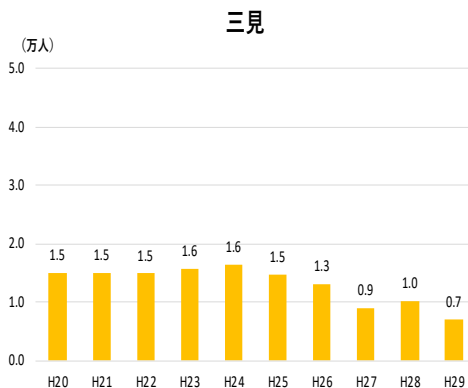
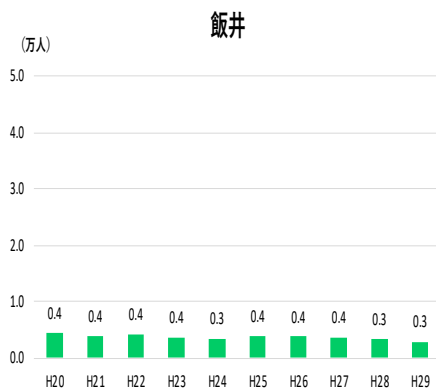
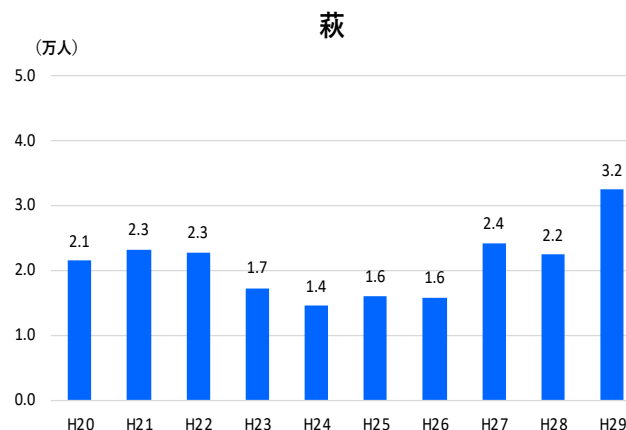
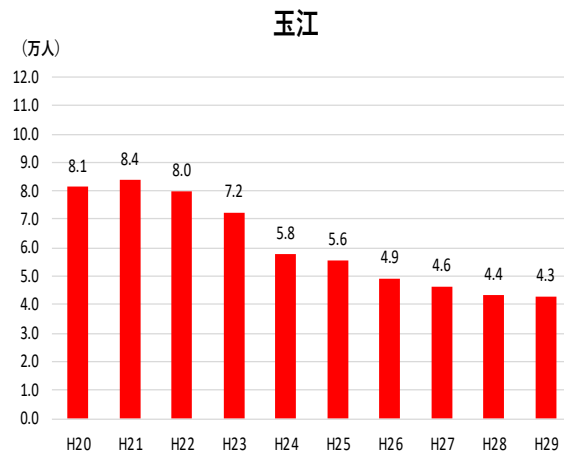
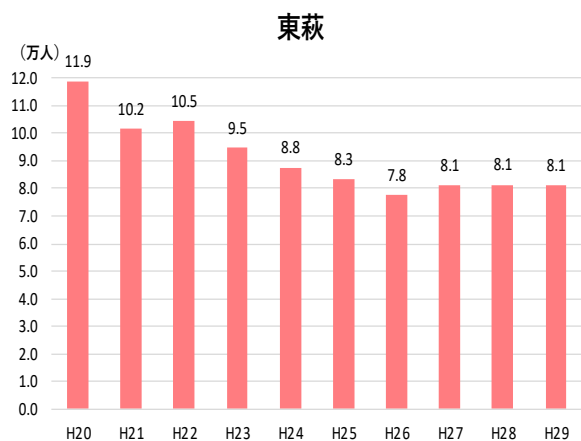
高校生の通学手段



公共交通に関する不満点

2. 萩地域の公共交通利用実態調査結果の概要(JR山陰本線)

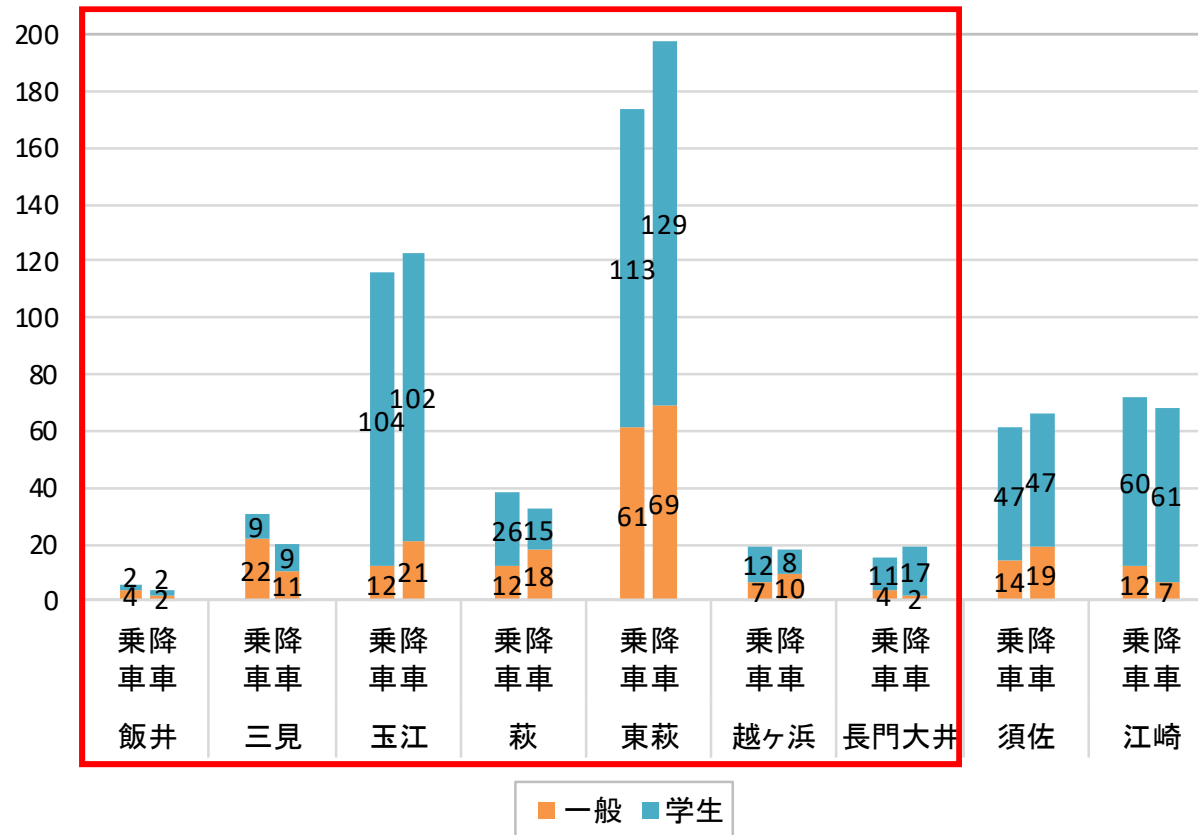
- 萩地域の鉄道駅の年間利用者数は、**東萩駅 8.1万人、玉江駅 4.3万人、萩駅 3.2万人と利用が多く**、その他の駅（飯井駅、三見駅、越ヶ浜駅、長門大井駅）は、1.0万人に満たない状況です。
- **駅によって、通学・通勤、観光利用と利用目的が異なります。**



鉄道駅の年間利用者数

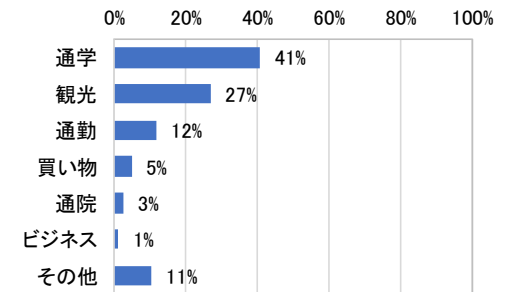
2. 萩地域の公共交通利用実態調査結果の概要(JR山陰本線)

- 平日1日当たりの乗降者数は、東萩駅 370名、玉江駅 240名、萩駅 70名と多く、その他の駅（飯井駅、三見駅、越ヶ浜駅、長門大井駅）が10～50名程度でした。
- 主な利用目的は、東萩駅と萩駅が「通学」「観光」で、玉江駅が「通学」となっています。

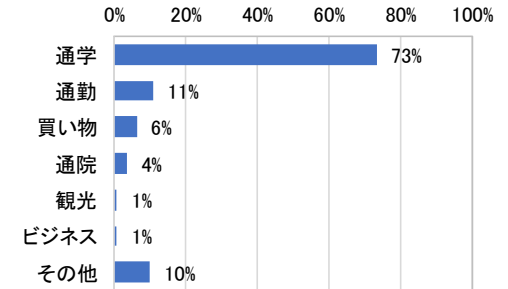


鉄道利用者数（平日1日）

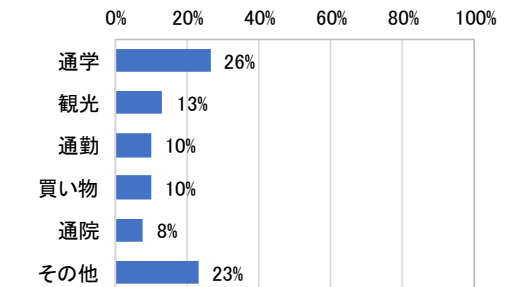
【東萩駅(n=217)】



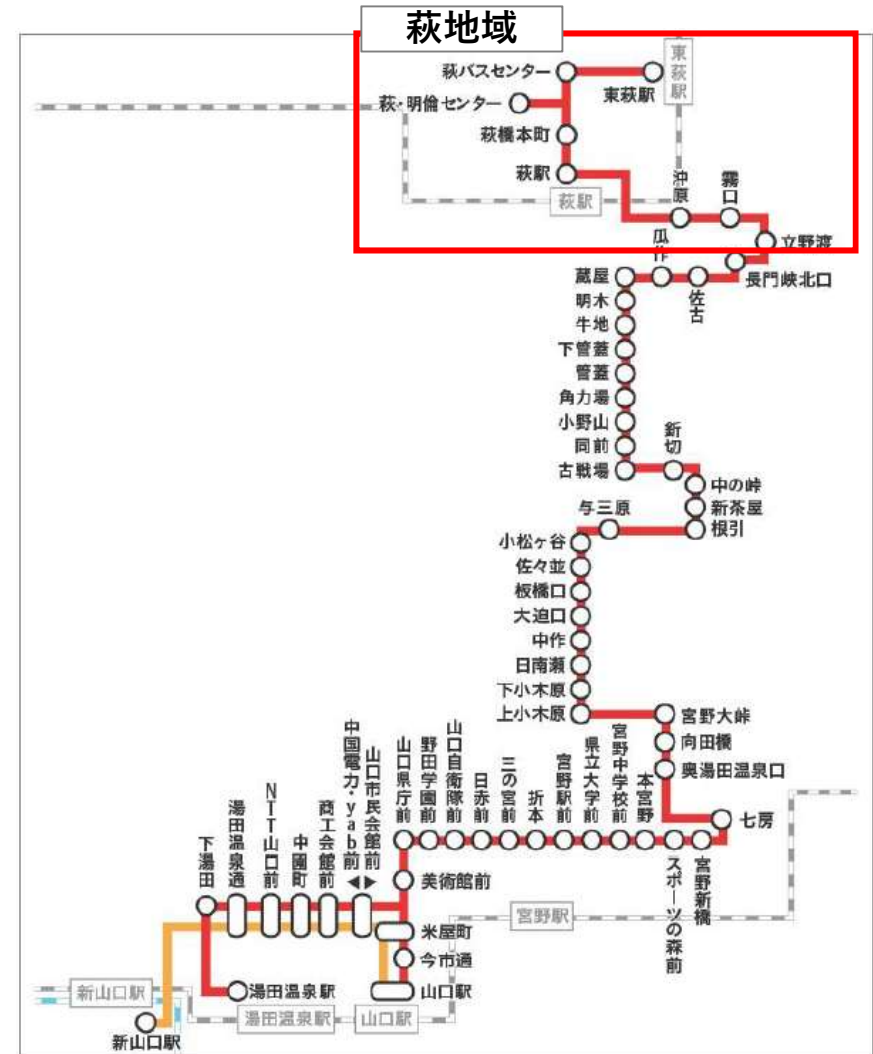
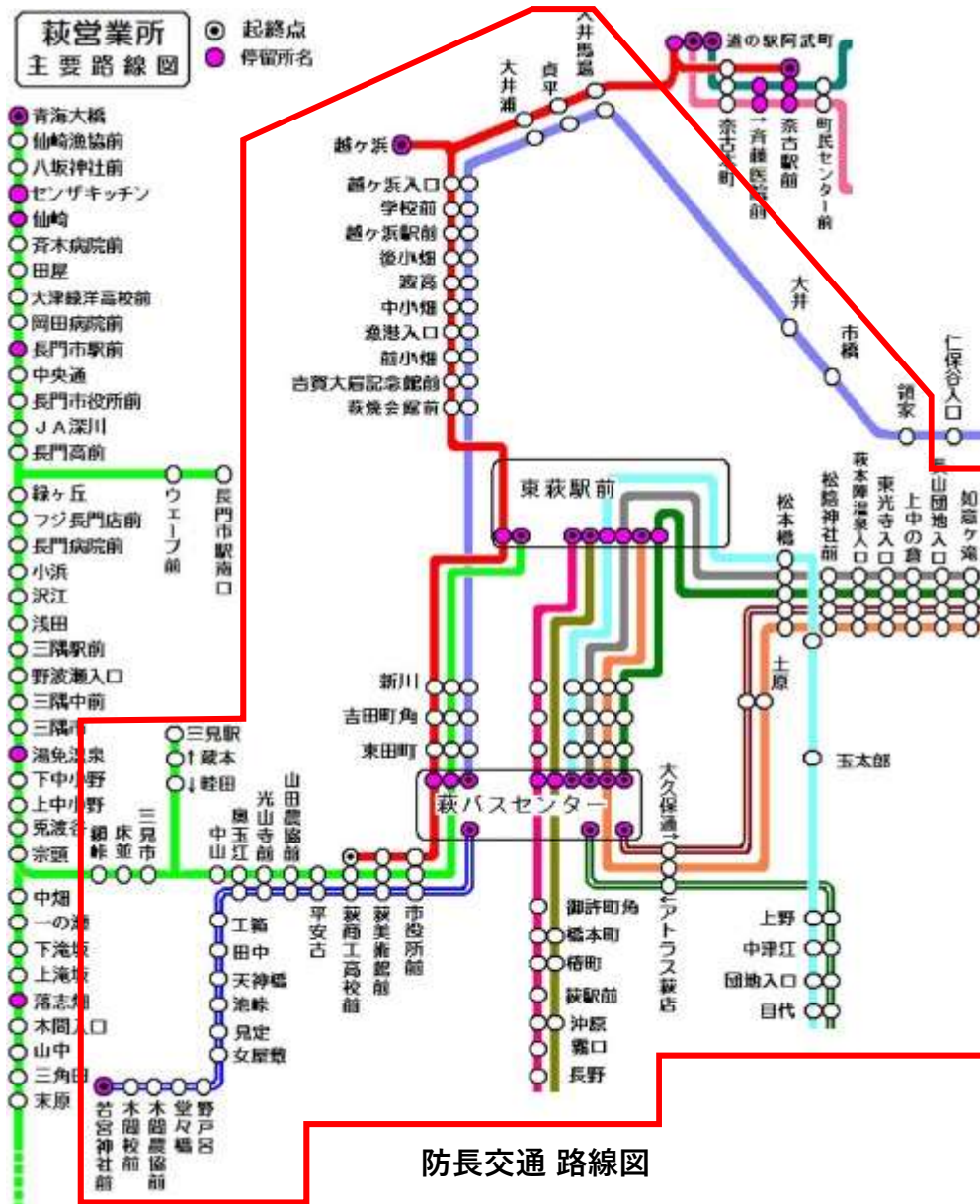
【玉江駅(n=109)】



【萩駅(n=91)】



2. 萩地域の公共交通利用実態調査結果の概要(路線バス)

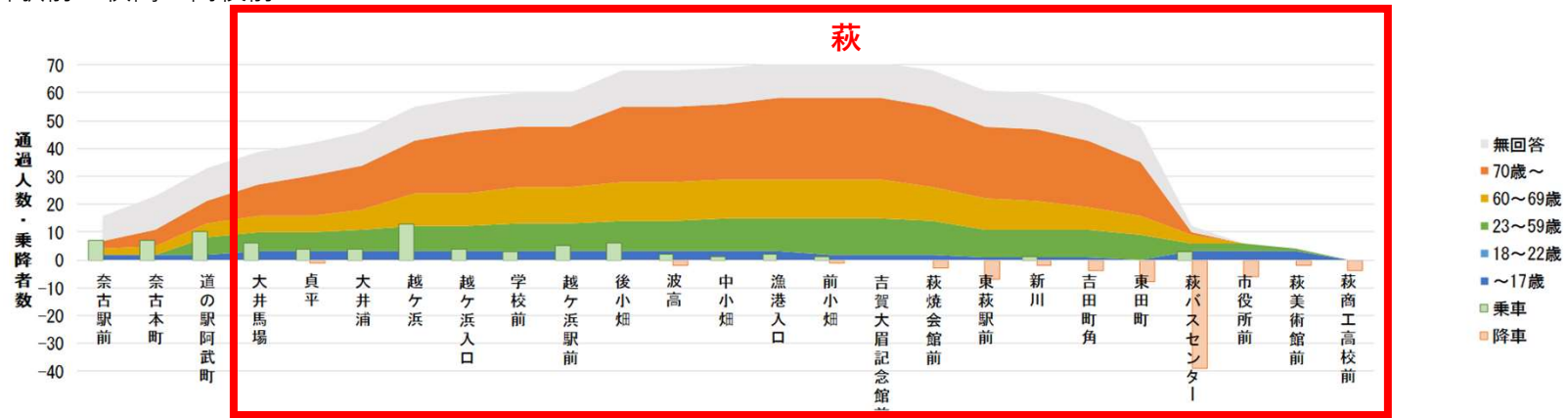


2. 萩地域の公共交通利用実態調査結果の概要(路線バス)

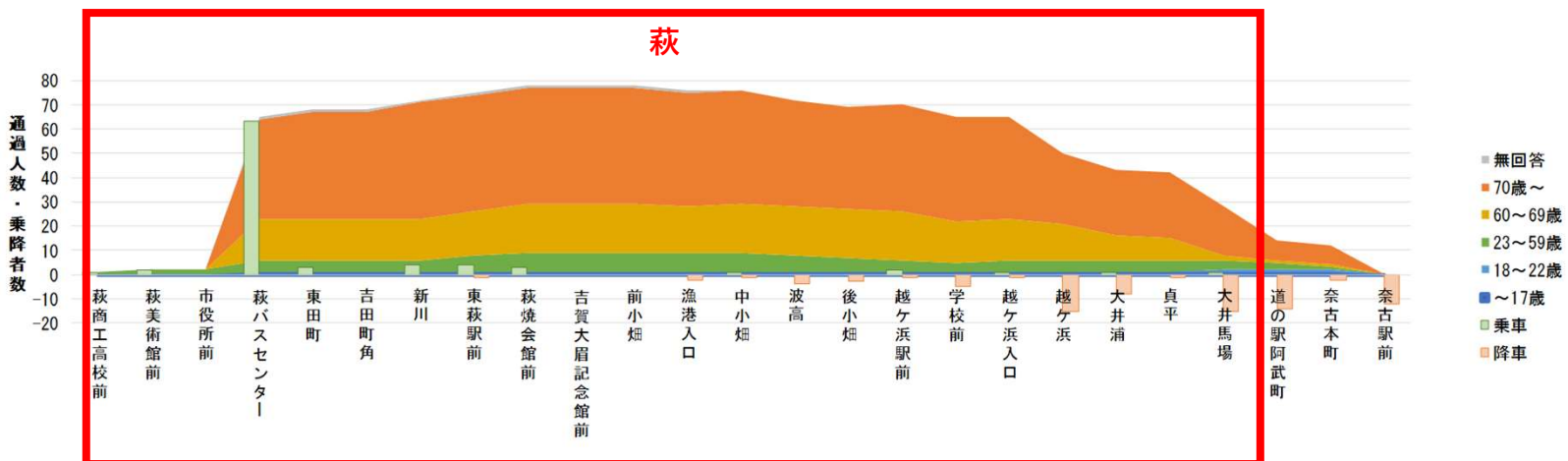
【防長交通 萩商工高校前～奈古駅前線】

- 萩商工高校前～奈古駅前線は、1日あたり21便運行しており、多くの利用者が見られます。(180人/日、8人/便)
- 阿武町、大井、越ヶ浜から萩市街地まで満遍なく利用者が多い状況です。
- 60歳以上の高齢者の利用が大半を占めています。

■ 奈古駅前→萩商工高校前



■ 萩商工高校前→奈古駅前

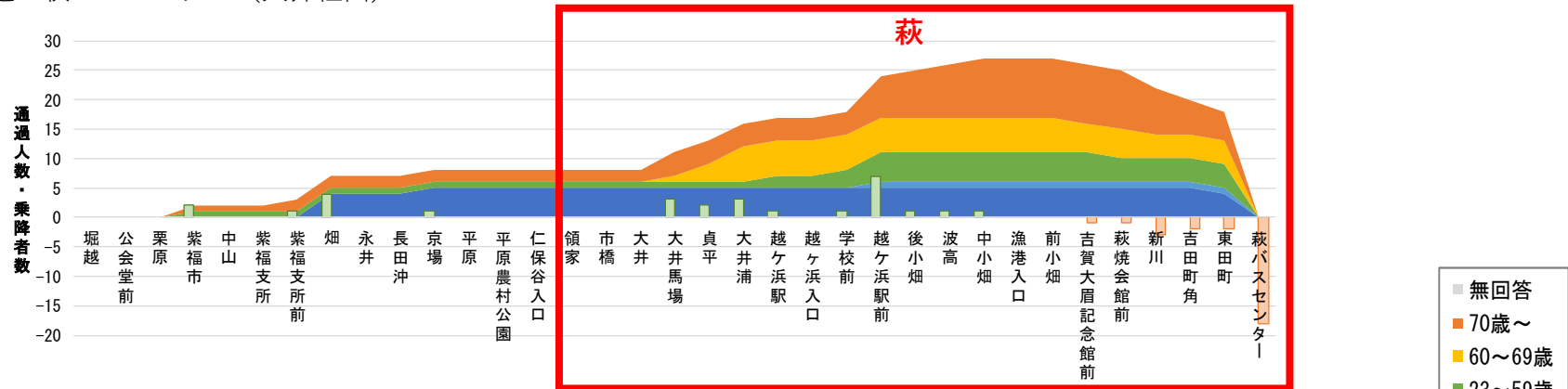


2. 萩地域の公共交通利用実態調査結果の概要(路線バス)

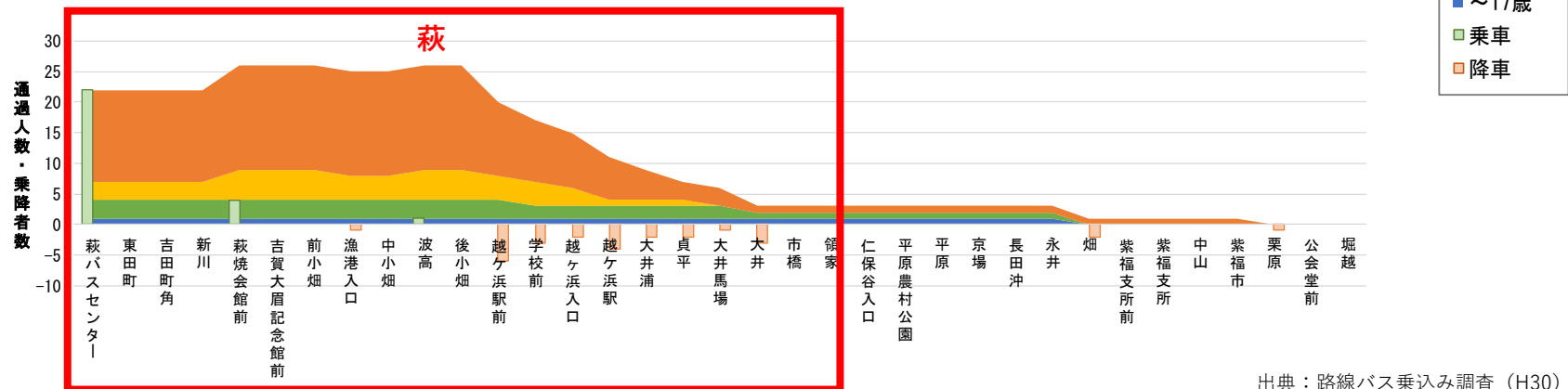
【防長交通 萩バスセンター～堀越線（大井経由）】

- 萩バスセンター～堀越線(大井経由)は、1日あたり10便運行しています。
- 大井や越ヶ浜から萩市街地への利用者が多い状況です。

■ 堀越→萩バスセンター（大井経由）



■ 萩バスセンター→堀越（大井経由）



2. 萩地域の公共交通利用実態調査結果の概要(まあーるバス)

【萩循環まあーるバス】

- まあーるバスは、「買い物施設や市民病院や介護老人施設等への住民の足」と「点在する観光資源への交通手段の確保」を目的に運行されています。
- 城下町特有の入り組んだ道でも小回りが利き、高齢者がスムーズに乗降できる小型低床ノンステップバスを全国に先駆けて導入
- H12年から萩市が事業主体、防長交通が運行業者として運行
- 萩市役所を起点に、東萩駅や松陰神社方面を回る「東回りコース」と萩城城下町や萩城跡方面を回る「西回りコース」の2系統
- 萩市役所を7:00始発～18:00終発で、30分間隔で定時運行
- 東回りから西回り、または西回りから東回りに乗換ができる停留所を萩市役所や萩バスセンター、萩駅・観光協会前などに設置し、乗換も可能な設定

ルート	走行距離	バス停	便数	所要時間
東回り	約20km	42カ所	23便/日	56分/便
西回り	約17km	37カ所		



萩循環まあーるバス 路線図

2. 萩地域の公共交通利用実態調査結果の概要(まあーるバス)

【萩循環まあーるバス】

- 運賃は、高齢者、身体障害者、子供などの割引も考慮し、誰もが気軽に乗車できるように「ワンコイン100円」
- 市民や観光客の利便性を考慮し、現金の他にバスカードを発行し、地域住民や観光客の集まる施設等で販売
- まあーるバスの「1日乗車券」と「2日乗車券」は、路線バスの一部区間が利用でき、まあーるバスが運行していない笠山・越ヶ浜方面へのアクセスが可能

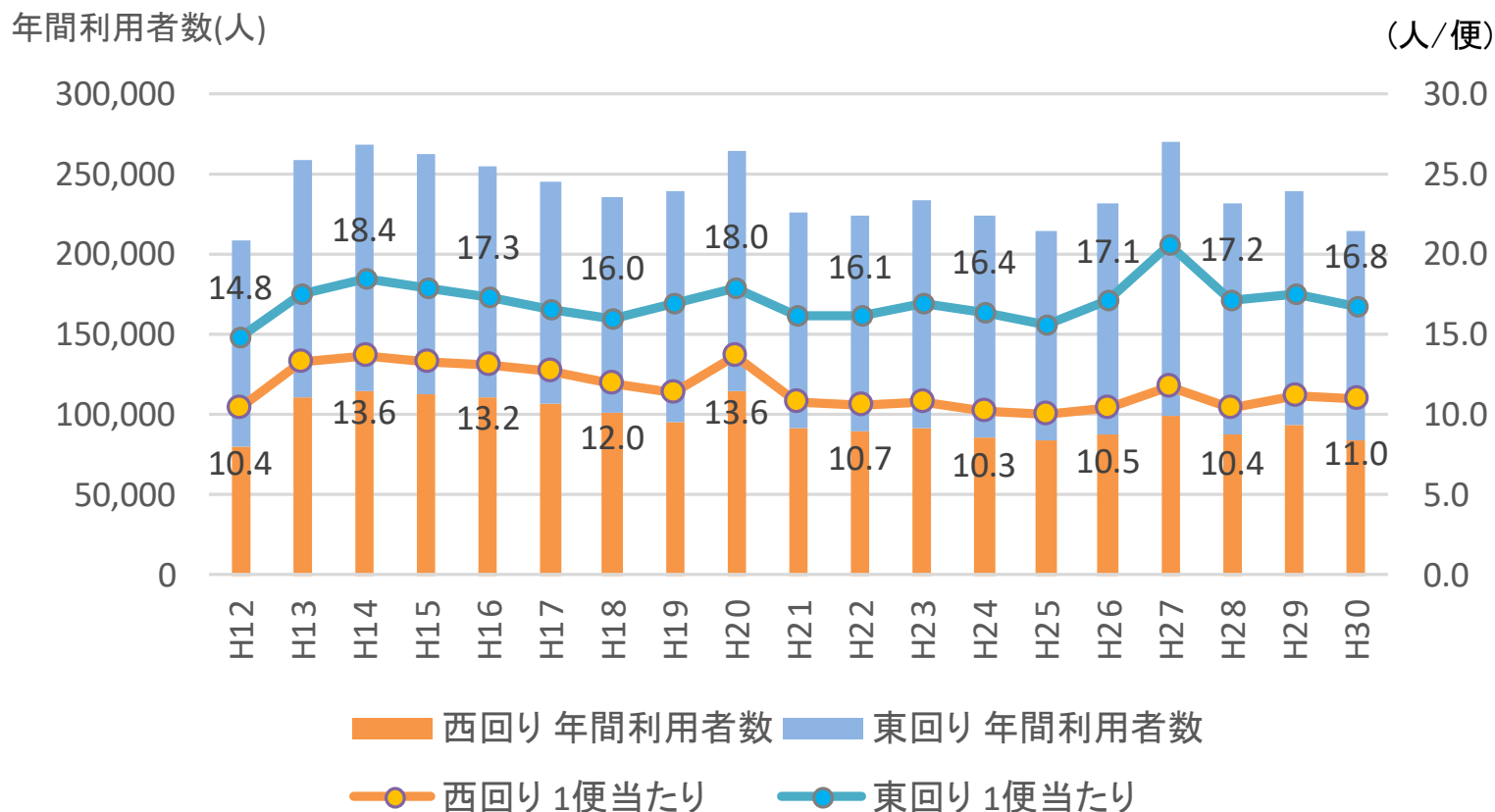


まあーるバス+萩市内路線バス 共通乗車券対象エリア

2. 萩地域の公共交通利用実態調査結果の概要(まあーるバス)

【萩循環まあーるバス】

- 平成12年に運行開始されて以降毎年年間20万人の利用が存在しています。
- 平成27年度は、萩市等を舞台にした大河ドラマ「花燃ゆ」が放映されたことや、世界遺産に認定されたことなどにより、過去最高の利用者（年間27万人）を記録しました。
- H28年以降は利用者が徐々に減少しており、今後路線の見直しや利用促進等の改善を検討します。



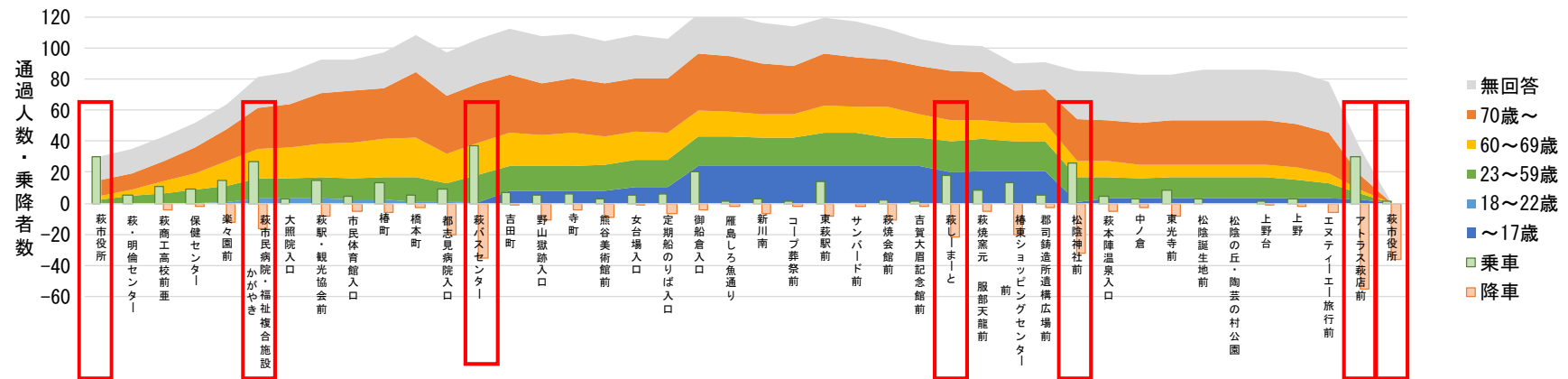
まあーるバス（年間利用者数、1便あたり利用者数）

2. 萩地域の公共交通利用実態調査結果の概要(まあーるバス)

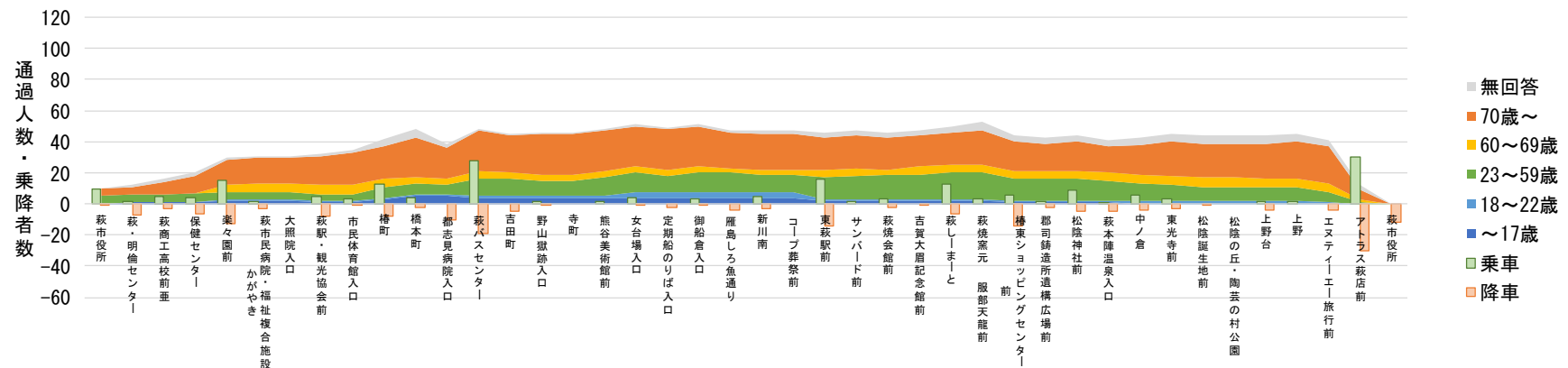
【萩循環まあーるバス】

- まあーるバスは、東回りが1日当たり400人程度、1便当たり15人程度、西回りが1日250人程度、1便当たり10人程度の利用者がいます。
- **東回りの乗降者数の多いバス停は、「萩市役所」「市民病院」「萩バスセンター」「萩しーまーと」「松陰神社前」「アトラス萩店前」となっています。**

■東回り松陰先生（平日）



■東回り松陰先生（休日）

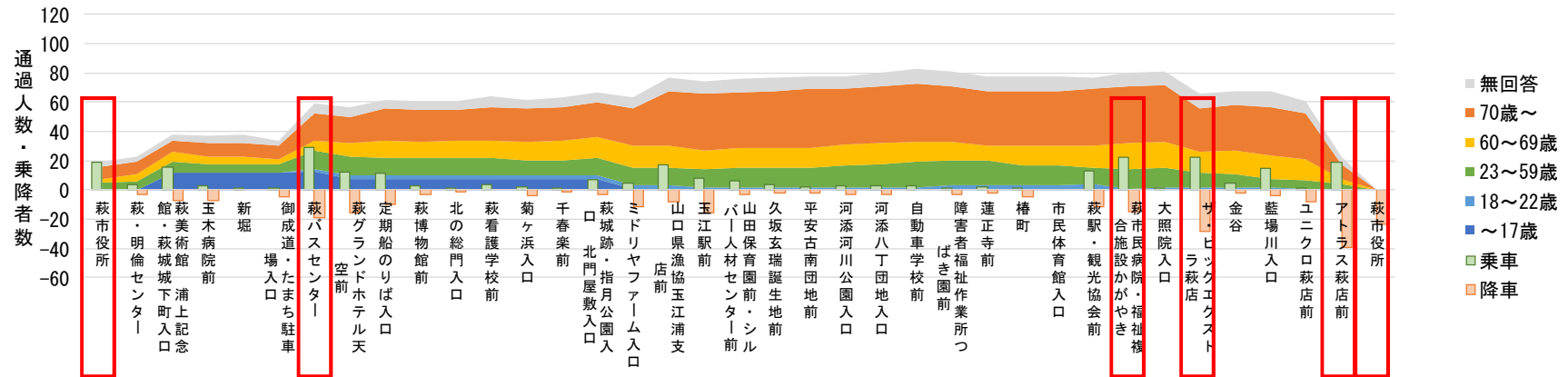


2. 萩地域の公共交通利用実態調査結果の概要(まあーるバス)

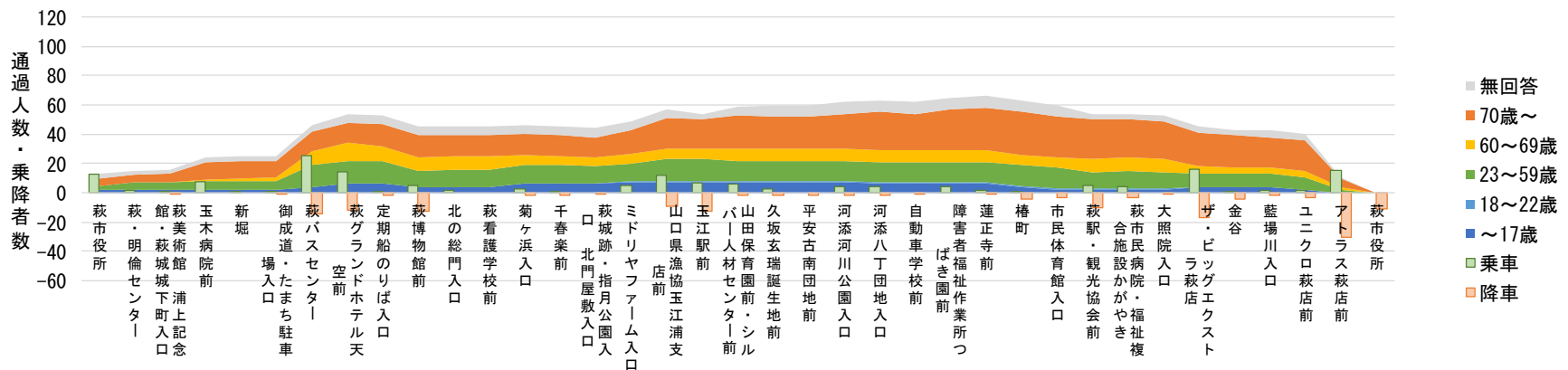
【萩循環まあーるバス】

- まあーるバスは、東回りが1日当たり400人程度、1便当たり15人程度、西回りが1日250人程度、1便当たり10人程度の利用者がいます。
- 西回りの乗降者数の多いバス停は、「萩市役所」「萩バスセンター」「市民病院」「ザ・ビッグ」「アトラス萩店前」となっています。

■西回り晋作くん（平日）



■西回り晋作くん（休日）



2. 萩地域の公共交通利用実態調査結果の概要(まあーるバス)

【萩循環まあーるバスと他都市の市内循環線等との比較】

- 他自治体の市内循環線と萩市のまあーるバスの人口規模、路線数、運行便数、利用者数を比較しました。
- 人口5万人程度の都市においては、運行便数、利用者数が突出して多い。また、1便あたり利用者数は、20～30万人規模の中核都市と同程度の利用者数がみられました。
- 萩市のまあーるバスは平成12年から運行が開始されており、利用が定着していることや、生活利用だけでなく、観光利用も多いことから、多くの利用者数が存在しています。

自治体	人口規模	路線数	運行便数	1日あたり利用者数	1便あたり利用者数	備考
明石市 Tacoバス	約30万人	9ルート	139便	2,300人	16人	循環ではないが、市内の拠点を結ぶ
鳥取市 くる梨	約19万人	3ルート	93便	1,000人	11人	循環線
鳴門市 市営バス市内循環線	約6万人	1ルート	12便	70人	6人	循環線
萩市 萩循環まあーるバス	約5万人	2ルート	46便	650人	14人	循環線 生活・観光利用
府中市 ぐるっとバス	約4万人	1ルート	13便	50人	4人	循環線
久山町 イコバス	約1万人	2ルート	10便	50人	5人	循環線 生活利用

2. 萩地域の公共交通利用実態調査結果の概要(まあるバス)

■ 他自治体の市内循環線等の路線図



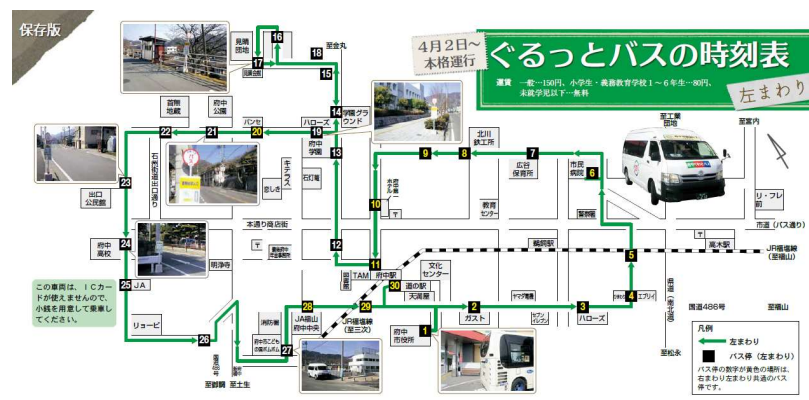
明石市 (Tacoバス)



鳥取市 (くる梨)



鳴門市 (市内循環線)



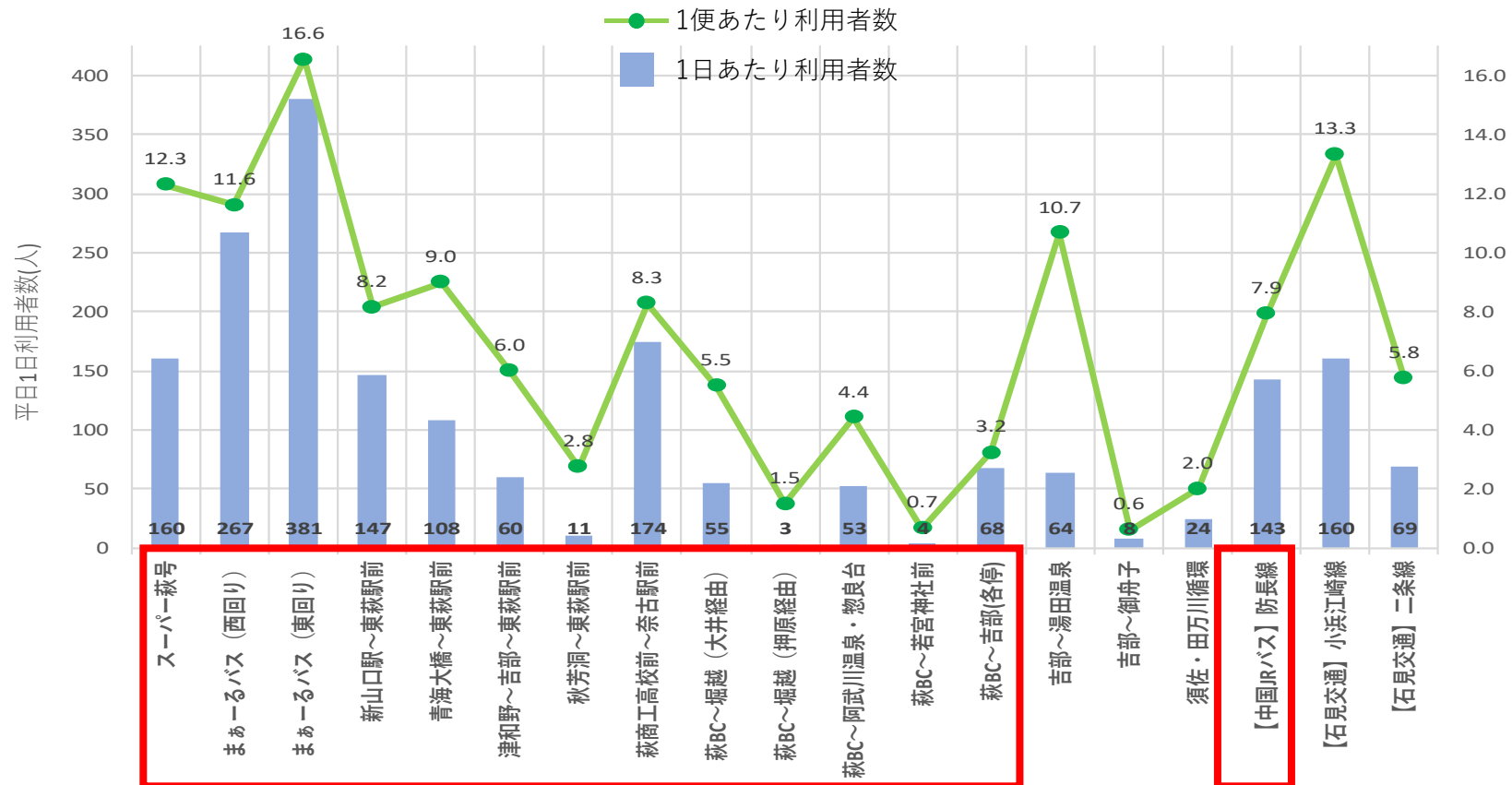
府中市 (ぐるっとバス)



久山町 (イコバス)

2. 萩地域の公共交通利用実態調査結果の概要(バス)

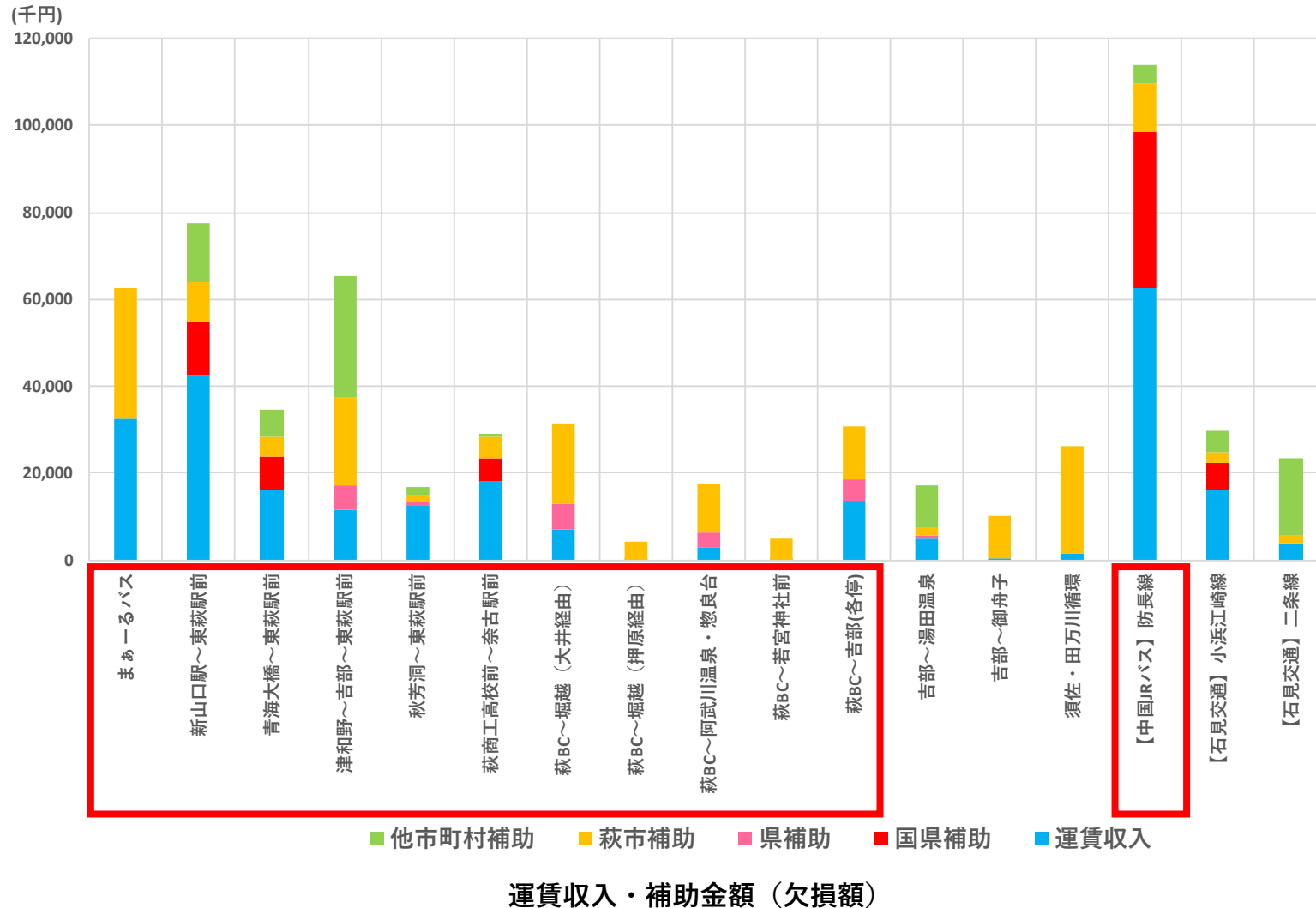
- 萩市全域の路線バスの平日1日あたりの利用者数、1便あたりの利用者数を整理しました。
- 萩地域を運行する路線バスは、防長交通の萩バスセンター、東萩駅前発着の路線及び中国JRバスの「防長線」、スーパーはぎ号、まあーるバスがあります。
- まあーるバスは、1日当たりの利用者数が300人～400人程度と最も多いです。防長交通の「萩商工高校前～奈古駅前線」「新山口駅～東萩駅前線」「青海大橋～東萩駅前線」と中国JRバスの「防長線」などは、1日あたりの利用者数が100人を超えており、広域幹線として重要な役割を果たしています。
- 一方、「秋芳洞～東萩駅前線」「萩BC～堀越（押原経由）」「萩BC～若宮神社前線」は1日あたりの利用者が少ない状況です。



平日1日あたり利用者数及び1便あたり利用者数

2. 萩地域の公共交通利用実態調査結果の概要(バス)

- 萩市全域の路線バスの運賃収入及び国、県、萩市、他自治体による補助金額を整理しました。
- 利用の低迷しているバス路線もあり、萩市の財政負担は増加傾向にあります。



2. 萩地域の公共交通利用実態調査結果の概要(ぐるっとバス)

- 萩市は、**交通空白地域における住民の地域内移動手段の確保を目的**として「ぐるっとバス」を各総合事務所管内で運行しています。
- 萩地域の三見地区においては、萩市が車両を提供、三見地区各種団体連絡協議会が運行を担う事で、平成28年11月より運行開始しました。
- 運行形態は、**電話で予約するデマンド運行**で、自宅から地区外移動に対応したJR・路線バスに接続します。

買物や通院の足にどうぞ

三見地区住民を対象にした、三見地区各種団体連絡協議会が運営する『ぐるっとバスはぎ』がいよいよ運行開始です！

- (対象者) 三見地区内居住者
- (運行区域) 三見地区内(各地区公会堂・三見公民館・三見駅・バス停・道の駅等を運行)・・・明石・市を例に利用方法を載せています
- (利用方法) 利用(利用者登録制)する前日までに、道の駅萩・さんさん三見又は三見出張所に電話予約(予約受付時間:9時~17時)
- (運行日) 火・木・土曜日 午前9時 ~ 午後3時
列車・バス便発着時間に合わせて運行
臨時便として、イベント開催時運行あり
- (運行車両) 10人乗りマイクロワゴン(市所有の車両)
- (運転手) 三見地区各種団体連絡協議会(ボランティア)
- (利用料) 無料



(運行開始) 平成28年11月20日(日)三見公民館まつりより運行開始

※ 普通車による運行のため、車椅子を使用される方や乗車に介助が必要な方は乗車できません。
利用についての問い合わせ先・予約先については、道の駅萩・さんさん三見(27-0041)または三見出張所(27-0001)まで



三見地区のぐるっとバスチラシ

2. 萩地域の公共交通利用実態調査結果の概要(ぐるっとバス)

- 利用者数は、H28年度が60人/年、H29年度が260人、H30年度が260人の利用がありました。
- 主な利用目的は、三見公民館でのイベント利用、道の駅のレストラン、農協での買い物となっています。

三見ぐるっとバス実績

運行主体：三見地区各種団体連絡協議会（現運転手 4人）

運行車両：トヨタハイエース10人乗り 1台

運行方式：デマンド便（前日までに三見出張所へ電話予約）

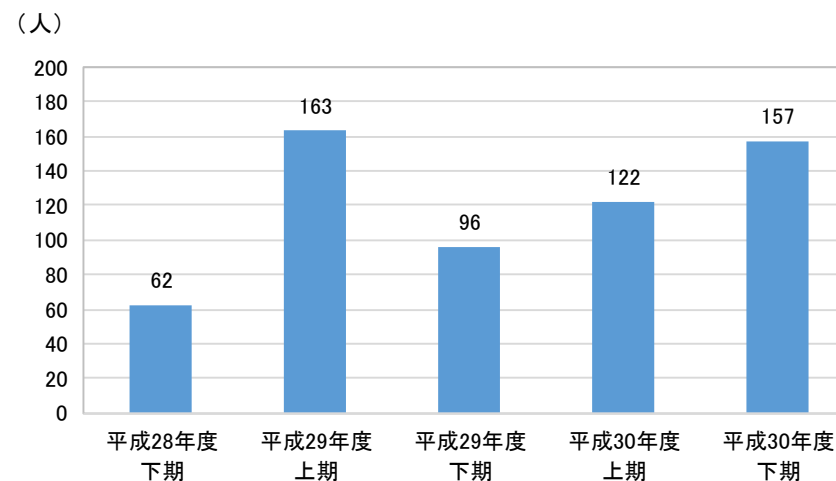
運行日：火曜日、木曜日、土曜日

運行時間：9：00～15：00

運行費用：・市の公用車を無料貸し出し

・燃料費、保険料、車検費用は市負担

月別	平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	利用者数	利用者数	利用日数	利用者数	利用日数	
4月	—	6人	2日間	9人	3日間	
5月	—	15人	3日間	11人	1日間	
6月	—	46人	4日間	68人	4日間	
7月	—	31人	2日間	14人	1日間	
8月	—	18人	1日間	8人	2日間	
9月	—	47人	3日間	12人	1日間	
10月	—	—	—	46人	3日間	
11月	9人	49人	4日間	12人	2日間	
12月	7人	16人	3日間	34人	3日間	
1月	0人	2人	1日間	45人	3日間	
2月	12人	16人	1日間	2人	1日間	
3月	34人	13人	4日間	18人	1日間	
合計	62人	259人	28日間	279人	25日間	



三見地区ぐるっとバスの運行状況と利用状況

3.高齢者生活支援バスについて

- 萩地域の三見地区、大井地区では、住民主体による高齢者生活支援サービスとして、以下のサービスが実施・検討がされています。
- サロン活動での公共交通の利用や、住民主体の移動手段の推進により、持続可能な移動手段を確保することが必要です。

地域	地区	訪問型サービス（家事援助等）	通所型サービス（サロン活動等）	車両
萩	三見	実施検討中	名称：花いちもんめ 実施団体：三見地区社会福祉協議会 活動内容：サロン活動 実施回数：月1回	・市の公用車で試行実施中
	大井	名称：ちょこっと手助け 実施団体：大井地区社協福祉協議会 活動内容：草取り、ゴミ出し、買物代行等 実施回数：随時	名称：お〜い元気かい！ 実施団体：大井地区社会福祉協議会 活動内容：サロン活動 実施回数：月1回	・市の車両を無料で貸し出し（8人乗り） ・車両運行に必要な経費（ガソリン代・保険料・車検代等）は市が負担 ・H30年度より開始

住民主体による高齢者生活支援サービス



4. 萩地域の公共交通の課題と将来像(案)について

【①幹線と支線の役割分担の明確化や交通結節機能の強化等による効果的な運行体系の構築】

- 萩地域では、広域的な幹線について、スーパーはぎ号や防長交通の新山口駅～東萩駅前線や中国JRバスの防長線は「山口方面」、防長交通の青海大橋～東萩駅前線は「長門方面」、津和野～吉部～東萩駅前線は「津和野方面」、萩商工高校前～奈古駅前線は「阿武町方面」、JR山陰本線は「長門方面」と「益田方面」など、萩地域と周辺地域や隣接自治体を結ぶ様々なバス・鉄道の路線網が存在しています。
- これらの広域幹線は、萩バスセンター、萩・明倫センター、東萩駅、萩駅、玉江駅などの交通結節点で、萩市街地内の移動を担うまあーるバスや路線バス等の支線と接続し、利便性の向上を図ります。
- 高齢者や高校生、勤労世代などの移動実態と公共交通への要望、また観光客の移動ニーズ等を踏まえ、広域幹線とまあーるバスなどの支線の役割分担の明確化を図り、主要交通結節点としての交通結節機能の強化等（乗継環境や待合環境の整備など）により、また、広域幹線や支線の運行形態も含めて、より効果的な運行体系を構築します。
- とりわけ、まあーるバスについては、市街地住民はもとより周辺地域や離島住民の市街地での移動手段であること、また、観光客にとっても市内観光の移動手段であることを踏まえ、運行エリアを含めて、より利便性の高い運行体系を構築します。

【②様々な交通体系の組み合わせによる住民移動手段の確保】

- 市街地周辺の地区においては、交通事業者による広域幹線交通やぐるっとバス、自家用有償旅客運送、さらに住民の支え合いによる交通などの地域コミュニティ交通等の様々な交通体系を効果的に組み合わせることにより、交通事業者・行政・住民の協働による新たな公共交通網を形成し、暮らしを支える利用しやすい、持続可能な移動手段を確保します。

【③利用しやすい公共交通と利用促進】

- 高齢化が進展する中で、利用者に分かりやすく乗りやすい公共交通体系を構築するとともに、とりわけ周辺部における路線バス利用に係る運賃が割高であることから、福祉施策とも連携し、公共交通利用者の負担軽減策やまあーるバスと防長交通路線バスの共通乗車券の対象エリアの見直し等、全ての公共交通について持続可能な移動手段を確保するため、利用者負担のあり方を検討します。